

令和5年11月期月次景況調査結果

この調査結果は、地区・業種を代表する県内組合の役職員の方から、毎月、業界の景気動向等に関する情報を収集・分析し、行政・関係機関に情報提供しています。

運輸業等やサービス業等を中心に景況感が改善している業種がある一方、多くの業種においては、原材料費・仕入れ価格の上昇を販売価格に転嫁しきれず収益の悪化が続いていることから、3か月連続して上昇した景況DI値は、僅かながら悪化に転じた。

人手不足の深刻化や最低賃金の引き上げ等による人件費の上昇が事業経営の足かせとなっており、また、物価高による消費の抑制が見られることから、景気の先行きを不安視する声が多く寄せられている。









山口県の主要指標 DI 値（令和5年11月末現在）








※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転：8.8% 悪化：33.8% DI 値：▲25.0% ポイント
売上高	(< 増加 > - < 減少 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、増加：23.8% 減少：27.5% DI 値：▲3.7% ポイント
収益状況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転：12.5% 悪化：33.8% DI 値：▲21.3% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（令和5年11月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲30 以上	 ▲30 未満
--	--	---	--	---

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲37.5	▲50.0	▲66.7	0.0	▲50.0	▲37.5	33.3	▲34.4
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス業	建設業	運輸業	その他	全 非 製 造 業
▲20.0	▲37.5	▲20.0	▲9.1	▲36.4	28.6	▲100.0	▲18.8
							

全 体
▲25.0


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	販売価格は上昇しているが、物価高騰により収益状況はよくない。値上げの検討が必要な組合員もある。	調味料製造業
	今年度は全国旅行支援や地域クーポン等の発行がないので、前年度より売上が減少した。改めて土産菓子を扱う組合員に有効な施策であったと実感している。	パン・菓子製造業 山陽小野田市
	雇用情勢が厳しく、欠員の補充ができていない状況。	パン・菓子製造業 下関市
	人手不足が深刻であり、後継者の育成が急がれる。原料魚の水揚げ減少が著しい。コスト上昇が続いているが、価格への上乘せが厳しい。	水産食料品製造業 長門市
	コロナが 5 類になり催事等が行われるようになって関連した商品を取り扱っている企業はそこそこ売上があった模様。円安により海外からの仕入れの値上がりが続く、原料が前年の倍ぐらいの価格になっているものの、簡単に価格転嫁できない企業もあり、利益率は良くない。最低賃金の引上げ額が高く、中小企業にとっては人手不足も重なって大変厳しくなっていく一方である。年末の今から忙しくなる中で、まだ収まりを見せないコロナやインフルエンザにも、企業内で感染しないように気を付けないといけない。	水産食料品製造業 下関市
	11 月に入り、文化祭や棟上げ関連等『紅白まき餅』の注文が更に増えてきた。今まで内部製造していたものを外注したと思われる注文もあり、今後も期待が持てるが、注文にどこまで応えられるかが一番の課題ではある。家が建ちイベントが復活し祭が盛大に催され、町全体が活気付き、景気が良くなることを期待したい。仕入先が 1 件倒産した。小規模企業が多いため、今後 1~2 年で店を畳む取引先が出てくる可能性があり、今まで以上に在庫管理を徹底したい。	食料品製造業
	コロナの感染もほぼ収まり、飲食店等も通常営業となり、売上の減少は軽微なものとなった。地球温暖化の影響により、各地において降雨がなく渇水状態となり、野菜栽培などに影響がでてきている。肥料、燃料など各種コストの大幅な増加により、製造原価が上昇し、事業活動がさらに苦しい状況となっている。各種生産資材の値上げが続いているなかで、取引先によっては、値上げをかたくなに拒否するところもあり、農業者には原価割れの状況が続いている。地球温暖化対策については、目に見えて進めているような政策がほとんどなく、水素ステーションの構築、燃料電池の積極的な導入など、水素循環型社会の実現に向けた政策の加速化が強く求められている。日本の発電量に占める化石燃料の利用率約 70%という数値も国際社会的にみても異常に高いので、早急に自然エネルギーの利用と原子力発電の利用を 70%にさせるなどの改善が必要である。ロシアがウクライナに侵攻し、1 年以上が経過したが、全く終息する気配も無く、原油、天然ガス等の資源不足が懸念されている。イスラエルがガザ地区に侵攻するなど、国際的な原油価格の上昇に伴って、肥料価格が前年比 150%アップという驚異的な結果とな	精穀・製粉業

	っている。	
繊維工業	受注単価が上がって受注量は減少だが、売上は横ばいで、総合的に効率は悪くない。人材の雇用も良くなってきたが、市場が不振の様相で今後の動向が心配である。	外衣・シャツ製造業
木材・木製品	廃業の組合員がある。今後の組合活動も検討中である。	製材業・木製品製造業 岩国市
	組合員の平均売上額は、コロナ禍の令和4年11月と比べ10%の減少。(コロナによる影響が出始めた時期は令和2年4月、令和5年3月頃には概ね収束)。住宅業界の着工数減少による影響を感じる。建築用材は下落傾向、チップ用材は引合いが強い。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	印刷事業部については依然として市場に印刷物がなく低迷が続く。Tシャツプリント等のプロセス印刷事業部は周南地区を中心に順調に稼働している。	印刷業 山口市
	現在、印刷業界は原材料の高止まりによる収益悪化と人材確保の非常に難しい問題を抱えている。終身雇用制の崩壊に伴う時代の流れかもしれないが、若年層の就業定着率は非常に低く、将来に向けて企業の長期ビジョンが描けない状況である。	印刷業 下関市
窯業・土石製品	インボイス制度が開始され、1万以上の値引きや返品について返還適格請求書の発行が必要になり、業務負担が増えた。振込手数料等は、取引先に費用負担のお願いをしているが、今後の営業活動への影響も心配される。	コンクリート製品製造業 柳井市
	前年比38%の出荷減少。原材料、動力費の値上げにより、1月より10%~15%の値上げの案内を通知した。支払手数料等の費用負担をお客様に12月より依頼している。	コンクリート製品製造業 防府市
	出荷量は、前月比102%、前年同月比92%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は安定している。	生コンクリート製造業
	依然として墓石の撤去依頼が多く、最近では県外からの撤去依頼も増えている。同じ墓地で2ヶ月の間に4基撤去した事業所もある。	石工品製造業
	11月の売上は、前年同月比で小売・卸ともにやや増加に転じた。やきものワールド(愛知県体育館 11/17~11/23)が開催され、当組合から3社が参加。昨年より多くの来場者があり、売上もやや増加した。萩焼協同組合初めての催事である「萩のうつわ「弐萩祭」が11/30~12/4萩明倫学舎で開催。	陶磁器・同関連 製品製造業
一般機器	9月、10月の繁忙期が落ち着いた企業も、それなりに仕事を確保できている模様だが、発注先により、忙しい企業とそうでない企業で差がある。総じて仕事量は例年通りだが、人件費、資材の高騰が進んでおり、皆、不安を感じている。	一般機械器具製造業 下松市
	業況は、特に変化は感じられない。売上高は上昇しているが、変動の範囲であり、概ね想定受注量、収益状況となっている。人員確保は2名できたが、世代交代に向けて継続的な投資が必要であり、採用にかかる費用が収益を圧迫している。倉庫の建築件数が増加に転じており、今後も2024年問題の影響を受け増加する可能性が見受けられる。輸送運賃の10%~20%の値上げ依頼が専属業者から打診されている。	一般機械器具製造業 防府市

	<p>ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルとハマスの戦争に伴う中東情勢の不安定化等による世界情勢の不安定化は先が見えない状況で、円安に伴う資源高、資源不足もあって、企業収益に大きな影響が出ている。中国の景気悪化に伴い、大手機械部品メーカーの発注が激減しているが、年内回復の情報もあり、関連企業も受注増の対応策に取り組んでいる。他の組合員については当面事業量を確保しており順調であるが、人材確保に苦慮している。サービス業、特に介護事業において人材の確保が困難な状況である。外国人人材確保の面では、最低賃金はアップされたが、他国に比して低賃金、円安の影響は大きく、台湾、韓国との人材確保競争は厳しいものがある。国内での競合も激しく都会の高賃金に対抗できず、地方においては募集しても人が集まりにくいだけでなく、高賃金を求めて転籍も多い状況が継続している。技能実習制度の有識者会議の最終案が公表されたが、職種の継続問題、1～2年による転籍に伴う影響は大きく、企業努力だけでの人材確保は困難を極めることが想定される。国のサポート体制の構築が不可欠。</p> <p>大きな変化はなく、厳しい状況に変わりはない。</p>	<p>一般機械器具製造業 宇部市</p>
<p>輸送機器</p>	<p>鉄道車両関係は海外（台湾・エジプト・メキシコ等）からの受注があり順調に推移しているが、受注量は2024年度後半以降から減少となる見通し。2026年度からは回復の兆しはあるが、今後の英国の高速鉄道計画の動向について注視。原材料費や電気料等の水道光熱費の高騰により、収益悪化が続くものと思われる。半導体製造装置の部品製造業において、当初の予定よりも大幅に受注量が減少し低位で推移。日立ハイテクの新工場建設（2025年稼働予定）における受注増加に期待するが、引き続き今後の動向を注視したい。</p>	<p>鉄道車両・ 同部品製造業</p>
<p>卸売業</p>	<p>例年、保管量が60%台に減少する時期にも拘わらず、90%以上の保管量が確保できている。入出庫が順調であり、倉庫売上は前年に比し大幅に増加している。</p> <p>水揚げ状況は全体で前年を下回り、価格も前年を下回った。11/23の「下関さかな祭」では、ふぐ鍋やあんこう鍋、くじら鍋を1杯100円で提供。くじら鍋は4年ぶりに復活し、天候にも恵まれ、3.5万人の人出があった模様。</p> <p>食料品の値上げにより、売上が鈍化傾向である。</p>	<p>乾物卸売業</p> <p>生鮮・魚介卸売業</p> <p>各種商品卸売業 山口市</p>
<p>小売業</p>	<p>各メーカーから新商品やクリスマス商品等が発売され、売上に上乗せできているところは売上が増加した模様。大手化粧品メーカーから発売された美容液は、メーカーと専門店が協働で拡売する商品で利益率も良く、取扱店は力を入れている。他メーカーの美容液もわざわざだが売上好調の様子。スキンケア商品の知名度を上げるために組合が大手化粧品メーカーに長期に要望していたTVコマーシャルの放映が実現した。売上げアップに繋げるには、コマーシャルも大切だが、並行してSNSなどによる自店のアピールも忘れてはならない。</p>	<p>化粧品小売業</p>

	お客様も動き出し、徐々に売上が上昇傾向。年末にかけて期待している。	機械器具小売業
	11月は「よさこいぶち楽市民祭」「こどもっちゃ商店街」「萌えサミット」等イベントの充実した月であった。こうしたイベントは、かなりの来客数となるので、これからも多いに盛り上げていきたい。「萌えサミット」の徳山駅周辺での開催が今年度で終わること、多くの集客に繋がり、惜しむ声も大きかった。	各種商品小売業 周南市
	11月の売上状況は前年同月比5%減少。全国旅行支援等の反動で減少しているが、前々年と比較すると同水準で推移。コロナは収束したが、物価上昇に伴う節約志向、消費の抑制が見られ、売上回復を図ることができない。売上の低迷と経費の増大が慢性化しており、景気の先行きに不透明感が強まっている。	各種商品小売業 萩市
	11月の供給高は前年比104.4%、来店者数92.5%。10月28日(土曜日)COEXまつりを4年振りに開催した。前年比467.7%の供給高となった。来店者は302名。野菜の入荷が通常に戻った。天候が不順だが、寒い日は鍋物用食材が売れている。	各種商品小売業 下関市
商店街	11月は消費行動が刺激され、業種業態によって異なるが、総じて好転となった。飲食業は、忘年会に向けての準備や販売促進が始まる時期で、投資、売上とも増加する。物販業態はバーゲンが加速する時期であるが、大手物販チェーンの一足早いバーゲンが始まり、インターネット通販も増大するため、一気に売上げ増加とはならない。インボイス制度や最低賃金の引き上げなど、経営・経理にかかる指導あり、現場の混乱が見られた。インボイス制度は、人的コスト、時間的コストの増大があったが、現実には大きな問題は表面化していない。	岩国市
	仕入れ価格が上昇しているが、販売価格に全て転嫁するのは難しい情勢である。	山口市
	消費行動が極めて低い。街に人がおらず、寒さと物価高が街の景気を冷え込ませている。	宇部市
	「たまちマーケット」と題して、毎月の最終日曜日にイベントを開催することになった。直ぐに各店の売上増加とはいかないだろうが、人通りは増加しており、各店の売上増加に期待したい。	萩市
	10月2日にプレミアム商品券販売があり、商店街で買い物になされ、年末の買い物にも利用されると思われる。来年度も実施してほしいとの要望が上がっている。	下関市
サービス業	人々が外出するようになり、美容業界も少し良くなっている模様。	美容業
	客数は増加傾向だが、仕入れ価格や光熱費の高騰により、採算面は変わらない。	理容業

	中国地方における令和 5 年 10 月の新車新規登録台数は、対前年同月比 12.3%増の 10 ヶ月連続でプラスとなり、全国においても 14.8%増と 10 ヶ月連続でプラスの状況。半導体問題も落ち着いてきたせいも、新車販売は回復傾向が顕著な状況。OBD 検査にかかるスキャンツール導入に国は補助金を設定して後押ししているが、第 1 次募集は早期に終了したものの今月から第 2 次募集が始まり、事業者の関心も高く、導入促進を期待するところ。一方最低賃金が上昇したものの相変わらず電気代高騰や物価の上昇傾向にあり、先行き不透明な部分が多い。大手中古自動車販売の不正請求による行政庁の処分が行われるなど、業界の信用失墜が負の状況となり得る状況に変わりはなく、信頼回復が重要な状況は変わらない。来月から年末繁忙期を迎え取引が活発化することが期待されるため、今後の動向を引き続き注視したい。	自動車整備業
	値上げで売上高は増加したが、入会動向は良くない。ただし地域差がある。	スポーツ・健康教授業
	11 月は前年同月比で売上が増加した組合員も増えてきた。しかしながら、依然として高止まりしている原材料費により、収益が厳しい状況が続いている。全国的には廃業に追い込まれる事業所も増えていると聞いている。	普通洗濯業
	年末に向けて予約も増えている。インフルエンザも流行っているが、慣れてきており、会食を控える等の影響はない。	飲食業
	前年同月比で売上 90.0%、宿泊人員 90.3%と前年割れとなった。昨年は 10 月 10 日から全国割が再開し大きく数値が伸びたが、今年は何ら施策を打つことができなかったことや、従業員不足のため部屋の稼働率を落とさざるを得ないことが要因。コロナ前の平成 31 年（2019 年）11 月との比較では、売上 89.1%、宿泊人員 96.8%となり回復基調が頓挫してきている。	旅館業 山口市
	売上高は前年比 12%の減少。重油、電気等は引き続き高値圏を継続。人件費の抑制は最低賃金の上昇等により収益に大きく影響している。未払金の増加により資金繰りが悪化しており、年末に向けて厳しい状況が継続する。	旅館業 長門市
	売上は好転しているが、景況としては悪化していると思われる。仕入高を費用に転嫁できていない。	旅館業 下関市
建設業	中電への工事申請 190 件(当支部 158 件)、前年同月 181 件(同 145 件)。太陽光発電への申請 52 件(前年 48 件)、オール電化申請 89 件(前年 96 件)。LED 街路灯への切り替え・新設申請 23 件(前年 32 件)であった。	電気工事業
	工事量は、ほぼ横這いである。技能者の減少が顕著であり、売上高の減少と収益の悪化が進んでいる。	左官工事業
	11 月は、公共工事の発注も民間工事の引き合いも無かった。しかしながら、組合員は、天候に恵まれ、既に受注の工事を順調に進めている模様。	管工事業

	<p>低金利、極端な円安の継続、消費者物価の上昇、追いつかない賃上げ、次に予想される防衛費、子育て支援関連の増税等は、内閣の支持率低下を加速させていると考えられる。土木建設業は、県発注の予算執行では現状維持が続いているものの、部材の高騰、担い手不足が深刻化している中、先行きが不透明である。</p>	一般土木工事業 柳井市
	<p>11月の受注高は、対前年同月比 151.4%。今年度の累計では、対前年比 99.3%。</p>	一般土木工事業 萩市
	<p>長門地区の公共工事の発注高については、11月末現在、河川浚渫工事及び災害復旧工事が発注されたことにより、例年より増加傾向にある。燃料費については、政府の燃料油価格激変緩和対策により下がったが、年度当初よりは大幅に高い価格となっている。建設資材については、まだ上昇傾向にあると思われる。</p>	一般土木工事業 長門市
	<p>1月頃までが忙しさのピークと話す組合員があり、今後は仕事量が落ち着くので、同業者の手伝い等で工場の稼働率維持に努めたい。小口の見積物件は程々あるが、まとまった規模の見積りが少ない。現場鍛冶工・溶接工・トラック等の確保が一段と難しくなった。</p>	鉄骨・鉄筋工事業
運輸業	<p>輸送量は 0.53%の増加。国内向けはやや増加したが、輸出関係は減少。運転者の高齢化が進み、長距離運行に体力的な不安を感じる運転者が増え、運転者不足が目立つようになった。燃料費は1円の値上げ。</p>	一般貨物自動車運送業 下松市
	<p>自動車関連の輸送稼働は前年比 20%の増加となり順調に回復している。燃料価格については若干下がっているが、情勢が厳しく、今後についての不安は拭えない。</p>	一般貨物自動車運送業 防府市
	<p>運送・保管ともに先月より横ばいである。依然として倉庫保管案件の問い合わせが多い。運行に関して 2024年問題対応の検討中。改善基準告示違反者をなくし、自社稼働の見直しを図る。</p>	一般貨物自動車運送業 宇部市
	<p>タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比 +23.7%（令和5年10月1日～令和5年11月20日分）だった。10月1日～31日分は+22.3%、11月1日～20日分は+25.9%。前々年度比では、それぞれ +33.4%、+36.3%、+29.1% になった。かなり回復しているように見えるが、前年、前々年がコロナ禍で大幅に減少したためであり、令和元年度10月分比（コロナ禍以前）では、まだ▲17.6%。当組合の取扱いタクシー事業者は、周南市、光市、下松市、防府市の地域。10月分については、周南+24.87%、下松+16.6%、光+32.3%、防府市地区が+13.7%で、組合員の全域では+24.0%、地区外（員外）+9.0%、合計+22.3%（+3,061千円）だった。主要燃料であるLPGについては、CP（通告価格）や為替によって変動する。（ブタンガスからプロパンガスに変わったため、集計項目が変わった）燃料単価は前月と同額、前年11月比も同額となった。6月から上昇し続けて来ており、今後の動向が心配されている。マスコミでも話題になっているが、タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって、慢性的危機的に不足している。各タクシー会社とも、利用客の拡販よりも、乗務員確保に苦心している。稼働車両が確保できないために、年末の繁忙期の輸送収入の伸び悩みが懸念される。</p>	一般乗用旅客 自動車運送業

	取扱高は、対前年比で増加となったが、前年同月は工場修理等の影響で荷役が中断したことによるもので、現在の取扱高が平年並みという状況である。	港湾運送業
その他	原油や物価高騰の影響で、光熱費や食費等も値上がり非常に厳しい状態が続いており、加えて10月から最低賃金が上がったため、多くの介護事業所ではより厳しい状況となっている。インフルエンザ流行や依然として続く新型コロナウイルス感染症対策に、神経質になっている施設もある。	介護事業